「二十世紀」への高接ぎによる「おさゴールド」の大果生産

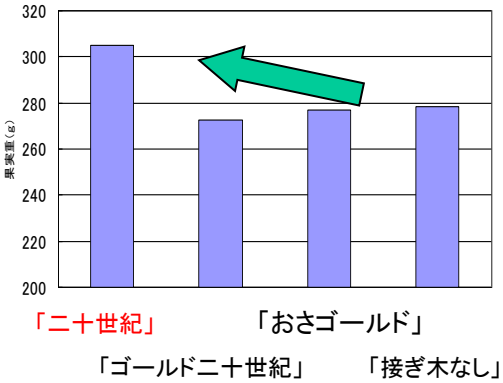
【背景・目的・成果】「おさゴールド」は「二十世紀」の後継品種として育成され、結実が安定し、しかも黒斑病に強い、優れた品種です。しかし、果実が小さくなる傾向があるため、大果生産の技術が望まれていました。
　そこで、高接ぎするのに適した品種を検討したところ、「二十世紀」を中間台にすることにより果実が大きくなることが明らかとなりました。

図1 「二十世紀」の弱点である黒斑病にかかった果実

・「おさ二十世紀」のγ（ガンマ）線照射により育成（鳥取県と農水省の共同研究、平成9年に命名登録）。
・自家結実性と黒斑病耐病性を併せ持つ青ナシ。
・収穫期、果実品質、外観は「二十世紀」とほぼ同じ。

図2 「二十世紀」に接いだ「おさゴールド」

図3 接ぎ木の状況
主枝の分岐部で接いだ状況



・「二十世紀」に接ぎ木すると接ぎ木しない場合と比べると、20g程度大きくなった。

・他の品種「ゴールド二十世紀」や「おさゴールド」に接いでも大きくならない。

図4 台木の違いによる果実重の比較

【技術の活用】 新植園だけでなく、既存の「二十世紀」を品種更新する際の樹種でも応用可能です。

兵庫県立農林水産技術総合センター　北部農業技術センター